

山口市・パンプローナ市 姉妹都市締結35周年記念事業報告記

2015.11.12(木)～11.17(火)



パンプローナ市議事堂

山口市

目 次

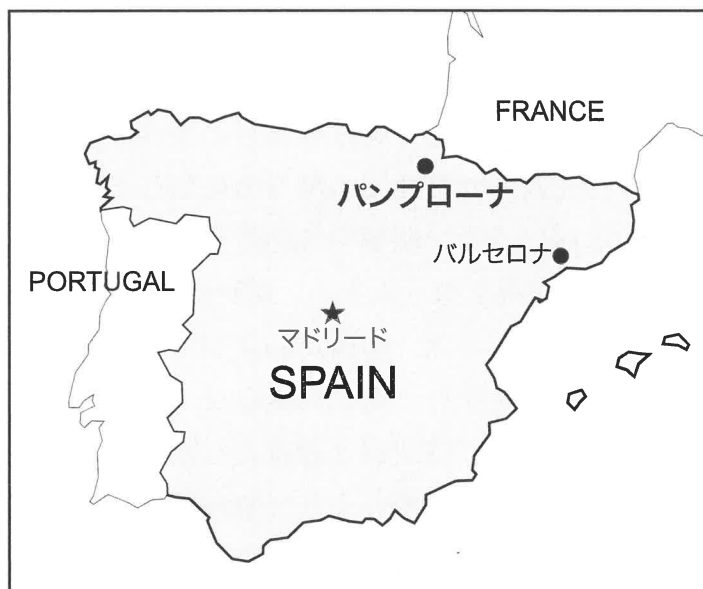
2	山口市長・パンプローナ市長 記念式典でのスピーチ
4	35周年記念訪問事業
14	35周年関連事業 ① 「姉妹都市パンプローナの紹介とスペイン映画上映会」 ② 絵葉書交流「スペイン・パンプローナ市のお友達にお手紙をかこう」
18	山口市とパンプローナ市の交流の歴史

パンプローナ市紹介

パンプローナ市は、スペイン北東部、フランスとの国境沿いにあり、ナバラ州の州都で政治・経済・文化の栄えた土地です。また、中世に栄えたナバラ王国の首都であったところで古い建物が残る歴史ある街です。

毎年7月6日から14日まで行われるサン・フェルミン祭は「牛追い祭」として世界的に有名な祭で、ヘミングウェイの「日はまた昇る」にその様子は克明に記されています。近郊には日本に初めてキリスト教を伝え、山口市に滞在した聖フランシスコ・サビエルの生まれたハビエル城があり、姉妹都市締結のきっかけとなりました。

平成9年春には締結15周年を記念して、山口市の造園技師の指導によって日本庭園を施した「ヤマグチ公園」が完成し、市民の憩いの場として親しまれています。平成18年は、サビエル生誕500周年にあたり、山口市でも、さまざまな記念行事が開催されました。



締結年月日	1980年（昭和55年）2月19日
人 口	197,488人（2010年1月）
面 積	25.24km ²

姉妹都市締結35周年記念式典

山口市長のスピーチ

私は、山口市長の渡辺純忠と申します。植樹式にあたり、訪問団を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

まず持って、昨日のパリで発生いたしましたテロ事件で犠牲になられた皆様方に慎んで哀悼の意を表します。国際友好交流でパンプローナ市を訪問しているなかにこうした事件が発生し、残念ではありません。

本日は、山口市、パンプローナ市、両市の締結姉妹都市35周年の記念となる植樹式を皆様とともに執り行うことができますことを、大変うれしく思っています。また、パンプローナ市の皆様方には、本日のために、周到な御準備をいただきましたことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

1980年に貴市と本市が姉妹都市となり、本年、35周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。

この節目の年に、友好交流の証としてヤマグチ公園で記念植樹を行うことができますことは、35年の長きにわたる両市の友好の歩みを実感し、これまで両市の友好交流を支えてこられました先人達のたゆまぬ御努力に対しまして、尊敬の念を抱かずにはおれません。

我々が、本日、ここで植樹する記念樹も将来に渡って両市の市民に愛され、そして次代の両市、両国の交流を担う人々へ、友好の精神を受け継ぐものと確信をいたしております。

本市といたしましては、両市が35年間で積み重ねてまいりました友情を更に深化させ、今後、両市の友好関係を、更に発展させていきたいと考えております。どうか貴市の皆様方におかれましても、御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

最後に、両市の友好関係のより一層の発展と、御臨席の皆様方の御健勝とさらなる御活躍を心から祈念をいたしまして、植樹式にあたりましての挨拶とさせていただきます。

ムチャス グラシ阿斯（ありがとうございます）

2015年11月14日

山口市長 渡 辺 純 忠



姉妹都市締結35周年記念式典

パンプローナ市長のスピーチ

皆様 こんにちは。山口公園へようこそ。

こんにちは 皆様。まず、パンプローナ市と山口市の市役所の方々、そしてお集まりいただいたすべての皆様、今日ここにおいでいただき、また 昨日のパリの恐ろしい出来事に対して寄り添う姿勢を見せていただけてきて、ありがとうございます。私たち二つの民族、二つの市の姉妹関係はそれだけでも貴重なものでありますが、こういった悲劇の前に在ってはさらに意味深いものといえます。と申しますのも、まさに ヒューマンな関係こそが、こういった形の姉妹関係の礎であるからです。

だからこそ、山口市からいらした代表団の方々が、我がパンプローナの姉妹都市の名前を冠したこの山口公園で行われますささやかなセレモニーにご来賓いただきましたことに対して 感謝いたします次第です。

この両都市を特徴づけるものの一つに、その土地に根づくといったものがございします。どちらも、固有の伝統に、足を置き、その伝統も数千年に至るものさえあります。そしてそれが各々のあり方をなしているのもあるのです。今日この二つの伝統、一つは土着の私共固有の、そしてもう一つは日本の伝統を縫い合せようと思ひます。それは、私どもの郷土にやどるホスピタリティーと尊敬の精神をあらわす一つのよき例であります。具体的には、この地においてささげられるものに最高の敬意を表す「アウレスク」と呼ばれる民族舞踊おどりと桜の植樹です。花をつけた桜の木は日本文化の偉大な象徴であり、私たち両都市の庇護のもとに生まれたこの公園の始まりがどこであったかを彷彿とさせるよすがになるでしょう。そしてまた、この公園はここイルーニャ市にとってランドマーク的な場所の一つであります。日本において公園が住民の生活上重要な意義のある場所なら、私たちにとってもそれは同様で、市の重要な憩いの場の一つとなっております。

習慣と伝統といったものは、まちにとって文化の構成要素です。また だからこそ大切にしなければならないものなのです。そして、桜の木を植樹するというこの行為によって、重要な意味を伝えることになるのです。すなわち 日本文化の重要な要素であるサクラが、ここ山口公園に根を下ろし、その根がこの両都市の間をつなぐ絆のシンボルとなるという

ことです。

こうして、サクラを植樹し、こいのぼりを揚げることで 姉妹提携35周年の記念と両都市の関係の再確認を行い、将来に向けた 文化・経済・歴史また社会的な分野といったさらなる開拓へとつなげていきたいものと思っております。

ご参加いただいた全ての皆様、本日は有難うございました。

(通訳：パンプローナ市 鈴木啓子通訳)



山口市・パンプローナ市姉妹都市締結35周年記念訪問団日程

	月日	曜日	交通機関	現地時間	日程
1日目	11月12日	(木)	新幹線	7:15	新山口駅集合
				7:33	新山口駅発
				8:22	博多駅着
			KL870	9:05	福岡空港着 チェックイン、出国審査
				11:05	福岡空港発KL870便
			KL2028	15:30	アムステルダム空港 (オランダ) 着 入国審査
				17:40	アムステルダム空港発KL2028便
				18:55	パリ空港着 (空港内バスで移動)
			KL2170	20:45	パリ空港発KL2170便
				22:20	ビルバオ空港着
			専用車	23:00	空港出発
2日目	11月13日	(金)	専用車 (ライセンスガイド付)	23:30	ホテル着
				9:30	ビルバオ市内視察 文化複合施設アルオンディガ、ビルバオ市再生のきっかけとなったグッゲンハイム美術館視察
			パンプローナ市手配専用車	12:00	昼食
				13:30	ホテル出発
				15:30	パンプローナ着 アマイヤ・デ・エステバン儀典局長、鈴木啓子通訳 お出迎え
				16:30	パンプローナ・ヤマグチ州立図書館Biblioteca Publica de Pamplona-Yamaguchi訪問 (日本の紙芝居とスペインの絵本を交換)
				17:30	パンプローナ市議事堂視察
				18:00	パンプローナ市議事堂にてパンプローナ市長、副市長と懇談
				18:30	パンプローナ市議事堂にて各6政党の代表者と懇談
				19:30	パンプローナ市議事堂にて公式歓迎会 挨拶、記念品交換
				20:00	パンプローナ市議事堂にて歓迎夕食会
3日目	11月14日	(土)	パンプローナ市手配専用車	9:00	ホテル出発
				10:00	サンタ・マリア・デ・パンプローナ大聖堂視察
				11:30	ヤマグチ公園視察
				12:00	姉妹都市締結35周年記念式典 (スピーチ、桜の木の記念植樹、こいのぼり掲揚)
				13:30	パンプローナ市長、市幹部、議員との意見交換会
				16:30	日本文化を紹介する民間団体「ニホンニッポン」と懇談
				17:00	コンデスタブレ ニホンニッポンの活動視察 (現地の愛好家による盆栽展示、水墨画実演等)
				17:30	ナバラ美術館「南蛮漆〜ナバラ・日本の輝き〜」視察
				19:00	コンデスタブレ ニホンニッポンの活動視察 (現地の愛好家による剣道のデモンストレーション等)
				20:00	パンプローナ市観光部局職員と意見交換会
4日目	11月15日	(日)	パンプローナ市手配専用車	9:00	出発
				10:00	ザビエル城 (教会) 訪問
				12:30	パンプローナ市に拠点を置くプロサッカーチーム、クラブ・アトレチコ・オサスナのエスタディオ・デ・サダール (サッカー専用スタジアム) 視察
				13:30	昼食
				17:00	パンプローナ要塞視察、市内視察、夕食
5日目	11月16日	(月)	パンプローナ市手配専用車	9:00	ホテル出発
				9:15	サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校訪問 山口市や山口の学校生活の紹介、大内小学校児童が作成手作り紙芝居「桃太郎」を贈呈。学校からも紙芝居を頂く。
				10:30	ナバラ州政府表敬 挨拶・記念品交換
				11:00	タコネラ公園視察
				11:30	ビルバオへ出発
				13:30	昼食
			専用車	15:25	ビルバオ空港到着
			KL1688	17:25	ビルバオ空港発KL1688便
			KL855	19:40	アムステルダム空港着 出国審査
				21:25	アムステルダム空港発KL855便
6日目	11月17日	(火)	KL4258	15:40	仁川 (ソウル) 空港着
				18:40	仁川 (ソウル) 空港発
				19:55	福岡空港着
			新幹線		入国審査
				21:45	博多駅発
				22:20	新山口着

訪問団名簿

No	氏 名	役 職
1	渡 辺 純 忠	山 口 市 長
2	原 真 也	山 口 市 議 会 議 長
3	伊 藤 和 貴	総 務 部 長
4	田 邊 孝 士	山口市議会事務局副参事
5	山 本 哲 也	秘 書 課 主 幹
6	柳 井 裕 之	国 際 交 流 室 主 幹
7	喜多尾 風見子	通 訳



早朝のパンプローナ

歓迎式 ～パンプローナ市議事堂～



ジョセバ・アシロン・サエス市長と対面



パンプローナ市長、副市長、市議会政党代表と会談



記念品の交換 サエス市長より議事堂のミニチュアの贈呈を受ける。山口市長からは大内人形を描いた大内塗の丸盆を贈呈する。



記念撮影

姉妹都市締結記念式典

～ヤマグチ公園～



パリ同時テロ事件の犠牲者へ対しての黙祷をあと、記念式典を挙行。



最高の敬意を表す「アウレスク」と呼ばれる民族舞踊が披露された。



記念植樹
(山口市長とパンプローナ市長)



山口市より持参したこいのぼりを掲揚



地元テレビ局の取材を受ける



ヤマグチ公園の日本庭園の設置に携わった方々が訪問団に会いに来られた。

視察報告 1



パンプローナ・ヤマグチ公立図書館視察。山口市より贈呈した日本に関する書籍や紙芝居が所蔵されている。ナバラ州における日本文化紹介の拠点となっている。



日本の紙芝居とスペインの絵本を交換。頂いたスペインの絵本は山口市立中央図書館で所蔵することとなっている。右から2番目の方はパトリシア・ペラレス パンプローナ副市長。



山口市の観光ポスターを贈呈し、山口市の見所を紹介する。



副市長、ナバラ州政府図書館担当者アスン・マエストロ様（前列、白いベスト着用の方）、図書館員、日本文化協会会員、俳句の会の皆様と記念撮影。



サンタ・マリア・デ・パンプローナ大聖堂視察。以前、山口市を訪問頂いた方々が訪問時の写真を持参された。スペインでも保存状態の良い大聖堂として知られている。



コンDESTABレという古い建物を改装した文化施設でナバラ州で日本文化を紹介する団体「ニホンニッポン」の会員の方々と懇談。百人一首を贈呈。会員には山口県立大学に留学経験がある方もいた。



コンDESTABレでは剣道や水墨画の実演、愛好家による盆栽展示のなどが行われていた。パンプローナ市での日本文化に関する関心は高い。

視察報告 2



ザビエル城（教会）視察。地下には博物館が併設されている。



以前、山口を訪問されたことのあるザビエル村の方に出会う。



パンプローナ市に拠点を置くプロサッカーチーム、クラブ・アトレチコ・オサスナのホームスタジアム、エスタディオ・デ・サダール（サッカー専用スタジアム）を視察。チームの守護神は聖フランシスコ・ザビエルであり、シーズン前にチームの躍進を祈願してザビエル城（教会）を訪れる。創立は1920年と歴史のあるチームである。



サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校を訪問。山口市内の国際交流団体、スペイン・山口ナバラの会が取り組んでいる姉妹都市パンプローナを紹介する「紙芝居プロジェクト」より拡がった大内小学校児童が作成した手作り紙芝居「桃太郎」を贈呈。カデナ学校からもオリジナル紙芝居が贈呈された。



訪問団からは山口市や山口市の小学校の学校生活を紹介。カデナ校からは、スペイン人と日本人児童による紙芝居の披露があった。



ナバラ州政府を表敬し、アナ・エレラ外務参事官と面会した。

ヤマグチ公園の紹介



両市の姉妹都市締結15周年を記念して、造成計画のあった公園をヤマグチ公園と名付け、公園に日本庭園を設置したいとのパンプローナ市からの協力要請があった。それに答えるかたちで山口市造園協会の協力の元、造園技師を派遣し、平成9年（1997年）に完成した。ヤマグチ・パンプローナ公立図書館は公園に隣接する建物の一角に入居する。市民の憩いの場として親しまれている。

パンプローナの風景



パンプローナ議事堂全景。夜遅くまで人通りが多い。スペインの夕食時間は通常21時頃である。



イルーニャ広場。イルーニャとはバスク語でパンプローナの意味。



奥に見える建物がナバラ州政府庁舎。イルーニャ広場のすぐ近くにある。



教会入口には聖フランシスコ・ザビエルが訪問した場所が書かれており。ヤマガチも「AMAGUCHI」として書かれている。



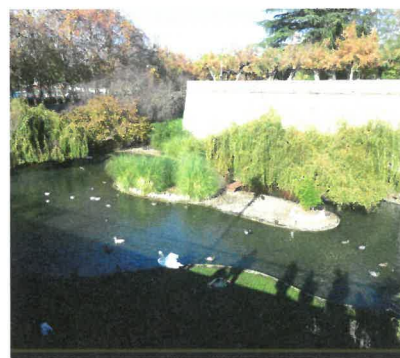
ザビエル城全景。ザビエル城はパンプローナ市郊外のザビエル村にある。城の左側の教会部分の正面のデザインが焼失した旧ザビエル記念聖堂のモデルとなっていた。



サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校正面。



学校では教育に紙芝居を取り入れている。



タコネラ公園。城塞の堀を利用した公園で、動物が飼育されており、市民の憩いの場である。

現地新聞記事

見出し

山口市とパンプローナ市が友好35周年をアウレスクのダンスとともに祝う

要旨（見出し下段）

- 両市長は絆を深め続けていきたいとの願いを表明した
- アシロン市長と渡辺市長、パリの犠牲者に対し黙祷をささげる

記事掲載文

パンプローナ

日本の山口市とパンプローナ市が初めて出会ったのはフランシスコ・ザビエルが伝道のため山口を訪れた16世紀にさかのぼる。そのナパールの守護聖人の到来が発端となり、1980年2月19日、両市の間で姉妹都市契約が締結され、確固たる結びつきが生まれることになった。

昨日、パンプローナ市は35周年として姉妹都市である山口市の代表団を再び温かい抱擁のもと迎えることになった。

日本の代表団とパンプローナ市役所は昨日、ヤマグチ公園にて記念祝賀行事を行った。パンプローナ市長のジョセバ・アシロン氏は「この関係をより強固なものにし、将来的には文化、経済、歴史、社会的な交流だけでなく、もっと多くの分野において活発に交流を進めていきたい」と固く誓った。同志の渡辺市長も「両市がこの関係を持続し、将来に目を向け、互いに絆を深めていく」ことに大きな願いを示した。

両市の出会いと友好35周年を記念し、アウレスクダンスが披露され、また池の周りと東屋の近くには5本の桜の水が植えられた。アシロン市長は（これを見て）両市の友好関係の象徴として、2つの伝統がひとつになったと語った。

渡辺市長は「私たちの友情の象徴である桜の植樹記念行事に参加できたことを誇りに思うと同時に、我々の先人たちが努力してこの友情の道筋を作ってきたことに敬意を表したい」と笑みをたたえながら語った。

桜の植樹祭には両市の関係者全員が参加し、両市長や駆け付けた市民たちが交流する場面も見られた。さらに観衆の中には、午前中に行われたこの愛情深い記念行事の中心を担った2人の市長のように植樹式典に参加したいという人もいた。両市長は自らスコップを持って木の根を埋めるために土をかける任務を任されていたにも関わらず、2人ともその作業をすることはできなかった。このような状況になる前、両市長は至って自発的に観衆の手伝いをしていったからで、その様子は参加者から大きな笑いを誘っていた。

5本の桜の植樹が終わると、二市長は3本の鯉のぼり（日本の旗の一種）を掲げた。この旗はそれぞれ鯉の形をしており、家族を象徴している。一番上の鯉はお父さん、赤はお母さん、一番下は子供である。

公式行事のほかに、コンデスタブル宮殿では終日さまざまな催しものが行われた。その目的は日本文化を知ってもらうことであり、日本の詩歌である俳句を語る会、子供やお年寄りを対象とした昔話のお話し会、日本茶の試食会、墨絵と版画のワークショップなどが開催された。

1分間の黙祷

パリ襲撃事件の犠牲者を偲び、記念行事が始まる前、両市の参加者は1分間の黙祷を捧げた。

ジョセバ・アシロン・パンプローナ市長は「昨日パリで起きた恐ろしい事件に対し強固な団結」を新たにし、「両市の姉妹都市関係の大切さを考えると、このような事件が起きたとき（両市の関係は）より意味のあるものになる」と語った。

一方、渡辺市長は「パリの襲撃事件で亡くなった方々への弔意」を示し、国際交流行事のさなかにこのような事件が起きて残念である、と述べた。

写真説明

- ①（写真左上）パリ襲撃事件の犠牲者のために1分間の黙祷をささげた日本とパンプローナ市の代表団
- ②（写真右上）桜の植樹のため、自分のスコップを手に取る前に日本の渡辺純忠市長にスコップを渡すジョセバ・アシロン市長
- ③（写真左下）3本の鯉のぼりを掲げる渡辺、アシロン両市長
- ④（写真右下）代表団の前でアウレスクを披露するドゥグナダンスグループの舞

現地報道記事について

VEICINOS紙（ベシーノス＝隣人の意）36頁から37頁
パンプローナと周辺地方（地方版）日刊ニュース2015年11月15日版より



Las corporaciones japonesa y pamploonesa decidieron guardar un minuto de silencio en solidaridad con las víctimas de los



Watanabe y Asiron izan los tres 'koinoboris'.

YAMAGUCHI Y CELEBRAN 35 AMISTAD CON

● Los dos alcaldes mostraron su deseo de seguir “estrechando lazos” ● Asiron y Watanabe encabezaron el minuto de silencio por las víctimas de París

✎ Sara Huarte
✎ Javier Bergasa

PAMPLONA - La primera vez que la ciudad japonesa de Yamaguchi y Pamplona cruzaron sus caminos fue en el siglo XVI, cuando San Francisco Javier la evangelizó. Esa incursión del patrón de los navarros fue el principio de una relación que se consolidó el 19 de febrero de 1980, cuando ambas ciudades firmaron un acuerdo de hermanamiento.

Ayer, 35 años después, Pamplona volvió a recibir con los brazos abiertos a los representantes de su ciudad hermana, Yamaguchi.

La delegación nipona y la corporación municipal del Ayuntamiento de Pamplona celebraron ayer un acto de conmemoración en el parque de Yamaguchi. El alcalde de Pamplona,

Joseba Asiron, se comprometió a “afianzar estas relaciones y proyectarlas a más ámbitos en el futuro como el cultural, el económico, el histórico y el social”. Su homólogo en Yamaguchi, Sumitada Watanabe, mostró su deseo por “refrendar las relaciones que mantenemos y seguir estrechando lazos entre los dos municipios de cara al futuro”.

Para celebrar el encuentro y los 35 años de amistad se bailó un auresku y se plantaron cinco cerezos japoneses alrededor del lago y cerca de la caseta o *azumaya*, en un intento, según dijo Asiron, de “aunar las dos tradiciones como símbolo de la relación entre ambas ciudades”.

“Para mí es un orgullo participar en esta plantación de cerezos, que son un símbolo de nuestra amistad, mientras



atentados de París.



Joseba Asiron da la pala al alcalde japonés, Sumitada Watanabe, antes de coger la suya para plantar el cerezo.

PAMPLONA AÑOS DE UN AURRESKU

admiro el camino de nuestra amistad, fruto del esfuerzo de nuestros antecesores", comentó Watanabe con una sonrisa.

La plantación de los cerezos, un acto en el que participaron las dos corporaciones al completo, fue motivo de varias bromas entre los dos alcaldes y algunos espectadores. Además, algunos de los asistentes también quisieron participar en la plantación de los cerezos, como dos txikis que protagonizaron la escena más tierna de la mañana. A pesar de que ambas estaban decididas a cargar la pala y echar tierra para tapar las raíces del árbol, no eran capaces de levantar la pala por sí mismas. Ante esta situación, ambos alcaldes acudieron a ayudarlas, de una forma completamente espontánea, provocando las carcajadas de los asistentes.

Una vez plantados los cinco cerezos, los dos alcaldes izaron tres *koinoboris* (una especie de bandera nipona). Cada uno de los estandartes representan a una carpa y simbolizan a la familia. La negra, la más alta, simboliza al padre, la roja a la madre y, la que está más abajo, al hijo.

Además de los actos institucionales, hubo varias activida-

des en el palacio del Condestable a lo largo de todo el día. El objetivo de las mismas era dar a conocer la cultura japonesa. Entre otras cosas hubo una charla sobre haikus, la poesía japonesa, cuentos tradicionales para niños y mayores, una degustación de té japonés o una demostración de *Sumi-ey* grabado japonés.

MINUTO DE SILENCIO Por expreso deseo de ambas corporaciones se guardó un minuto de silencio antes de comenzar el acto en memoria de las víctimas de los atentados de París.

El alcalde de Pamplona, Joseba Asiron, agradeció "la solidaridad mostrada tras los terribles sucesos de ayer en París" y afirmó que "si el hermanamiento entre dos ciudades, dos pueblos, es importante, ante sucesos como este adquiere un carácter más relevante". "Son las relaciones humanas las que fundamentan este tipo de hermanamiento", añadió.

Por su parte, Watanabe expresó sus "condolencias por la muerte de todas las personas en los atentados en París" y lamentó que "ese atentado tan doloroso haya ocurrido durante nuestro intercambio internacional". ●



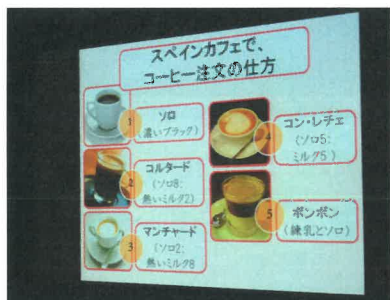
Un dantzari del grupo de dantzas Duguna bailó un aurreku ante las corporaciones.

35周年記念事業①

「姉妹都市パンプローナの紹介とスペイン映画上映会」

平成27年（2015年）2月19日

姉妹都市35周年記念事業として山口情報芸術センターで市内在住のスペイン人、エフライン・ビジャモール・エレロさん（講演内容は『バスク、パンプローナ、山口に住んでみて』）と山口県国際交流員マリア・ルビオ・カロさん（講演内容は『スペインの朝食＆お菓子の紹介』）の協力により「姉妹都市パンプローナの紹介とスペイン映画上映会『タイトル：朝食、昼食、そして夕食』」を開催。参加者は67名。



パンプローナ市姉妹都市締結35周年記念

姉妹都市パンプローナの紹介と スペイン映画上映会

Sesión de cine español y conferencia sobre la ciudad de Pamplona

サン・フェルミン祭

山口公園

お城の広場

ザビエル城

第1部 講演 18:30~19:05~ (入場は18:10~)

「バスク、パンプローナ、山口に住んでみて」(35分)
～スペインと日本の違い～

市内在住スペイン人 エフライン・ビジャモール・エレロさん
パンプローナと山口、日本とスペインの違い、共通点やパンプローナにある山口ゆかりの場所、現地の事情など、パンプローナに在住経験のあるスペイン・バスク地方出身のエフライン・ビジャモール・エレロさんに楽しく話していただきます。(日本語)

「スペインの朝食&お菓子の紹介」(10分)

山口県国際交流員 マリア・ルビオ・カロさん
スペインでよく食べられている朝食やお菓子について手作りレシピを使いながら山口県国際交流員マリア・ルビオ・カロさんに紹介していただきます。(日本語)

第2部 映画上映 19:25~

「朝食、昼食、そして夕食」(2010年/107分)

朝食、昼食、そして夕食

入場無料
※要電話予約

平成27年 **2月19日(木)**

山口情報芸術センター(YCAM)スタジオC
山口市中国町7-7

定員 100人(先着順)
申込方法 前日までに市国際交流室まで電話予約(934-2725)
主催 山口市

35周年記念事業②

絵葉書交流「スペイン・パンプローナ市のお友達にお手紙をかこう」を開催

平成27年（2015）12月

山口県国際課と山口県国際交流員マリア・ルピオ・カロさんの協力のもと、パンプローナ市にあるサン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校より届いた児童の描いた絵葉書への返信の絵葉書の作成に 大殿小学校、宮野小学校の児童が取り組み、カデナ校へ送り届けた。

授業の様子



宮野小の様子1



大殿小の様子1



宮野小の様子2



大殿小の様子2

送った絵葉書と届いた絵葉書の一部

送った絵葉書



届いた絵葉書



山口市とパンプローナ市の交流の歩み

昭和54年（1979年）

1月28日から2月6日

国際的な親善訪問先として、山口市と歴史的関係のあるスペイン国パンプローナ市が選ばれ、市制50周年記念式典への参加要請と今後の親善友好を進めていくため、訪問団（団長堀泰夫市長以下14名）がパンプローナ市を訪問、全市あげての大歓迎を受け、快く式典出席の承諾を得る。

4月8日から4月10日

パンプローナ市から、ベラスコ・イリアルテ市長以下6名が来山。

4月10日の山口市制施行50周年記念式典において、「これを機会に、なお一層友好の絆を深めていきたい」と、祝辞を述べる。

昭和55年（1980年）

2月15日から2月24日

山口市とパンプローナ市との姉妹都市盟約調印のため、使節団（団長中野正市議会議長以下17名）がパンプローナ市を訪問。

2月19日、パンプローナ市役所3階会堂において調印が行われた。写真①、②



①



②

3月28日から3月31日

パンプローナ市との調印を祝し、「現代スペイン絵画展」がちまきや百貨店にて開催される。

4月7日

山口市とパンプローナ市民の文通が始まる。

4月15日から6月30日

「パンプローナ市紹介写真展」が、市民ホールで開催される。

5月26日から6月2日

ふれあい教室「こんにちはパンプローナ」が、中央公民館で4回にわたり開催される。

6月1日

山口大学生グループとパンプローナ市民との無線交信が始まる。

6月11日

姉妹都市をたたえた詩がパンプローナ市民から山口市に贈られる。

10月上旬

姉妹都市をたたえた詩が、山口市の詩人、清木顕太郎氏からパンプローナ市へ贈られる。

10月18日

姉妹都市提携記念創作「大内館南蛮異聞」が、市民文化祭で上演される。

昭和56年（1981年）

1月中旬

姉妹都市1周年を記念して、幼稚園児、小・中学生との絵画105点と一般から募集した自己紹介とメッセージ20点をパンプローナ市へ贈る。

2月12日から2月15日

姉妹都市1周年を記念し、「パンプローナ展」を市民会館展示ホールにおいて開催。調印関係の記念品、民芸品、図書などの展示を行うとともに、文通コーナーや物産即売を行う。

2月15日

在日スペイン特命全権大使ホセ・アラゴネス氏を迎えて、姉妹都市1周年記念式典を行う。

2月16日から2月28日

姉妹都市1周年を記念しての訪問団（団長堀泰夫市長以下5名）がパンプローナ市を訪問。

1周年を記念する羊皮紙の手書きのメッセージが贈られる。写真③

2月19日、訪問団として始めてパンプローナ市の学校（エルミタガーニャ国立学校、アルカサル国立学校、サンイグナチオ学校）を訪問し、子供たちとの交流を行う。その際、山口市立小鯖小学校児童から杉山副議長に託された竹馬を各学校へ贈る。

また、山口市の主婦が作った紙人形（200個）も併せて贈呈する。写真④

4月1日から4月10日

「パンプローナからこんにちは展」を市民ホールにおいて開催。パンプローナ市から贈られた児童画42点をとメッセージ24点を展示するとともに、友情の輪を広げるため「文通コーナー」を設ける。

7月16日

パンプローナ市から来日中のホセマリア・シラルダ大司教が堀泰夫市長を表敬訪問。



③



④

昭和57年（1982年）

2月19日

姉妹都市2周年を記念して、堀市長とバルドゥーズパンプローナ市長が国際電話にてメッセージを交わす。

4月3日

姉妹都市提携が行われた中で、市民こぞって交流を盛り上げていくため、中野正調印使節団長を会長とする「山口市姉妹都市市民の会」が設立される。

6月中旬

パンプローナ市へ山口をあしらった「ハッピー」50着と「龍」の設計図を贈る。

7月7日から7月16日

「山口市姉妹都市市民の会」の設立を記念して、民間使節団（団長本廣正義助役以下21名）が、世界三大祭の一つとされる「サン・フェルミン祭」（牛追い祭）の期間にパンプローナ市を訪問。

10月13日から10月19日

パンプローナ市から初めての民間使節団として、ナバラ大学生7名が来山。姉妹都市市民の会と市の主催による市民歓迎会を10月14日市民会館において開催する。使節団は、15から16世紀頃の民族衣装でスペイン特有の楽器による民族音楽を披露する。また、引き続いて山口大学、山口女子大学の学生25名と姉妹都市学生交歓会を行う。写真⑤



⑤

昭和58年（1983年）

7月7日から7月16日

山口市姉妹都市市民の会の呼びかけで、民間使節として15名がパンプローナ市を訪問。

昭和59年（1984年）

3月から6月

山口青年会議所の青年交流事業をして、パンプローナ市青年との作品交換で、親と子で作った山口の伝統的な萩焼作品をパンプローナ市へ贈る。

4月17日から4月18日

パンプローナ市からバルドゥーズ市長夫妻一行4名が来山。山口市民による歓迎レセプションが開催される。

昭和60年（1985年）

10月11日から10月20日

パンプローナ市青少年から作品交換により贈られた作品（萩焼）及び手紙、アルバム、テープを市庁舎ロビーに展示。

昭和61年（1986年）

1月19日

山口青年会議所の主催により、県児童センターにおいてパンプローナ市青少年との作品交流の伝達式が行われ、パンプローナ市青少年から贈られた作品と文通の資料が山口市の子供たち（77名）へ渡される。

2月20日

市役所待合ロビーに国際交流展示コーナーを設置し、パンプローナ市及び済南市から贈られた記念品と締結協定書を展示して、広く市民に公開。

7月4日から7月13日

民間使節団として、パンプローナ親善訪問団（団長山根幹夫市企画部企画財政課長以下8名）がパンプローナ市を訪問。

昭和62年（1987年）

3月

パンプローナ市へ大殿小学校から作品（生徒の絵画12点、先生の写真73点）を贈る。

6月28日

山口市青年会議所主催によるパンプローナ市との交流事業として、子供達の国際電話による対話と交換絵画展が行われる。

12月3日

スペイン・ナバラ県と山口市のハム（嘉川、岡村礼次郎）同士の無線交信が行われる。山口市側から小林市長のメッセージを伝える。

昭和63年（1988年）

2月29日から3月2日

パンプローナ市在住の山口市連絡員村松文子夫妻が来山。3月1日市長を表敬、パンプローナ市から贈られた少年サッカー用トロフィーが届けられる。

8月24日から8月25日

第1回パンプローナ杯争奪少年サッカー大会（主催：山口市サッカースポーツ少年団本部、山口市教育委員会）が樫野川運動公園で24チーム約300名の参加により行われ、大会に先立つ伝達式で、岡藤康男市助役からトロフィーが手渡される。写真⑥



⑥

10月24日から11月3日

市民を対象に行われるヨーロッパツアー（21名）に、小林市長をはじめ議会と執行部を併せて7名が加わりパンプローナ市を訪問。両首長の交代もあったため、新たな交流計画と友好の絆を深めた。写真⑦



⑦

11月5日から11月6日

「いきいき国際協カランド」（主催：山口県青年団体連絡協議会）が中村女子高校で開かれ、民間による国際親善団体として山口市国際親善市民の会が、パンプローナ市、済南市及び会の活動状況を紹介する。

12月3日

聖フランシスコ・サビエルの祝日にあたるこの日、パンプローナ市のあるナバラ県のハムと山口大学アマチュア無線クラブ同士が交信を成功させ、姉妹都市相互の市長メッセージを交わす。

平成元年（1989年）

8月24日から8月25日

第2回パンプローナ杯争奪少年サッカー大会（主催：山口市サッカースポーツ少年団本部：山口市教育委員会）が樫野川運動公園で市内小学校の17チームが参加、熱戦が繰り広げられた。

成績 優勝 Aリーグ 興進A、Bリーグ 大内A、Cリーグ 附属

10月9日から10月11日

ナバラ商工会議所会頭、ペドロ・ブヘノ、同国際本部長イグナシオ・ガラニエナ氏が来山、市長を表敬訪問。

平成2年（1990年）

8月23日から8月24日

第3回、パンプローナ杯争奪少年サッカー大会（主催：山口サッカースポーツ少年団本部、山口市教育委員会）が樫野川運動公園において行われる。

9月11日

ナバラ商工会議所ブエノ会頭以下4名山口市役所を表敬訪問。

9月17日から9月18日

パンプローナ市からグループペレグリナシオン34名がサビエルのたどった道を訪ねて来山し、山口市を表敬訪問。パンプローナ市長からの親書を手渡す。

平成3年（1991年）

2月15日から2月16日

駐日スペイン大使アントニオ・デオヤルサバル氏が着任後初めて山口市を表敬訪問され、サビエル記念聖堂を訪問された。

10月5日から10月15日

市長を団長とし、議会と執行部、市民を合わせて15名がパンプローナ市を中心にヨーロッパを訪問。両首長の交替もあったため、就任のあいさつと今後の姉妹都市交流について協議を行う。写真⑧

11月10日

第4回パンプローナ杯争奪少年サッカー大会（主催／山口市サッカースポーツ少年団本部：山口市教育委員会）が維新公園、樫野川運動公園、白石小学校で市内小学校の56チームが参加。熱戦が繰り広げられた。



平成4年（1992年）

10月2日

大殿小学校の生徒が姉妹都市パンプローナ市のホセ・マリア・デ・ウアルテ学園の生徒に、学校の様子や山口市を紹介するため作成した親善アルバムを送る。

7月6日

イエズス会総長コルベンバッハ神父が山口のサビエル教会を訪れ、あわせて山口市役所を表敬訪問。

11月1日

第5回パンプローナ杯争奪サッカー大会（山口市、サッカースポーツ少年団、山口市教育委員会主催）が維新公園等を会場に開催、市内各地区から57チームが参加。

11月9日

姉妹都市パンプローナ市から来日したフランシスコ・ハビエール・デ・エステバン氏が市役所を訪問。パンプローナ市長の親書とホセ・マリア・デ・ウアルテ学園から大殿小学校にあてた生徒の作品を受け取る。

平成5年(1993年)

6月15日

市内一の坂川にかかるえびす橋がガーデンプリッジに改修され、パンプロローナ市をイメージした公園が設けられた。

写真⑨、⑩、⑪

10月24日

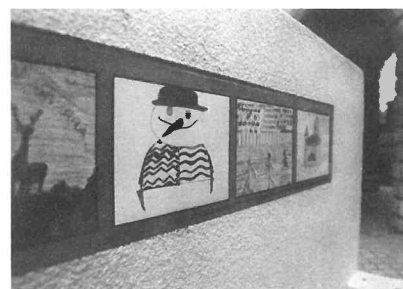
第6回パンプロローナ杯争奪少年サッカー大会を開催。市内各地区より61チームが参加。



⑨



⑩



⑪

平成6年(1994年)

10月23日

パンプロローナ杯争奪少年サッカー大会を開催。市内各地区より66チームが参加。

パンプロローナ市 姉妹都市締結15周年記念行事(1995年)

1月26日から2月2日
姉妹都市交流を記念して、パンプロローナ市内に建設される日本庭園の事前調査のため、山口市から造園技師2名をパンプロローナ市に派遣する。



⑫

2月17日から2月22日
姉妹都市提携15周年にあたり、パンプロローナ

市のアルフレッド・ハイメ市長一行12名の訪問団が山口市を訪問。18日記念式典でメッセージを交換。



⑬



⑭

写真⑫、⑬、⑭、⑮、⑯

5月5日

山口青年会議所の主催行事“青空天国 いこいの広場”に参加。山口市・パンプロローナ市姉妹都市提携15周年を記念して、スペイン・ナバラ地方のスポーツ、石引き大会を開催。11月9日に名田島ふるさとまつりでも開催し、多くの参加者がある。



⑮



⑯

10月23日

パンブローナ市姉妹都市締結15周年、済南市友好都市締結10周年を記念して、講師に宮尾登美子氏、中野孝次氏を招き文藝春秋講演会を開催。

11月26日

姉妹都市への理解を深めるため、音楽を通じて民間レベルでの国際交流に取り組む、MG I F山口が、山口市国際親善市民の会と共催でピアノと歌による日本の子どもの歌や抒情歌と、姉妹都市パンブローナ市にちなみスペインの歌曲のコンサートを開催。

1月27日

パンブローナ市との提携のきっかけとなったサビエルが山口を訪れた時、大内義隆に美装された本を贈り、西洋の文化を紹介した事にちなみ、両市の様子を紹介した書籍の交換を取り決めたことを受けて、山口市より29冊の本と2つのビデオを贈る。

平成7年（1995年）

4月9日から4月16日

大内文化探訪会（団長藤村順一郎会長以下22名）が、姉妹都市パンブローナ市内の歴史を勉強するために、パンブローナ市を友好親善訪問。

10月15日

姉妹都市パンブローナ市出身の留学生ネレア・ラケルさんが、パンブローナ市長より託された親書を持って山口市長を表敬訪問される。

平成8年（1996年）

6月1日から6月9日

パンブローナ市内に建設中の日本庭園の石と樹木の選定のため、造園技師1名を派遣する。写真⑬

9月8日から9月19日

パンブローナ市で建設中の日本庭園の石の配置と植樹指導のため、造園技師2名を派遣。



⑬



⑭

他に3名の造園技師のボランティアの協力を得て、訪問中に地元技師と協力し、石の設置を終えた。写真⑮

平成9年（1997年）

6月27日から7月4日

「山口公園」完成記念パンブローナ市訪問団

姉妹都市提携15周年を記念して建設中だった日本庭園が完成し、40人の訪問団が開園式に出席。開園式前、400個の紅ちょうちんを飾った園内で団員が抹茶と外郎で山口市をPR、「大内のお殿様」をパンブローナ市民と一緒に踊る。

庭園の広さは6,000㎡、滝、あづまや、洲浜を配した、りっぱな日本庭園が完成した。写真19、20

帰国後、8月30日、31日、団員によるC・S赤れんがで「スペインからこんにちは～パンプローナ市訪問団～写真展」が開催された。

写真21



19



20



21

平成10年（1998年）

4月28日から5月1日

4月29日に行われたサビエル記念聖堂献堂式出席のため、パンプローナ市パスカル・ロサノ第一助役夫妻ほか7名が来山。パンプローナ市のホセ・マリア小学校と絵画等作品交換をしている大殿小学校を訪問し、両校の作品を交換したり、授業を見学して児童との交流を行う。

また、サンティアゴ・サラス・スペイン大使とエドアルド・コル・デ・カルヴァーリョポルトガル大使館文化参事官も来山し、献堂式に出席。

山口教会のための協議会からは、前ナバラ商工会議所会頭のペドロ・ブエノ氏、ハビエル村長のアンヘル・シプレス・エスパルサ氏、ハビエル村助役ヘスース・マリ・ペレス氏、サン・ハビエル・ムルシア村長のホセ・ルイス・マンサナーレス氏が、市長を表敬訪問。

写真22、23、24

8月10日から8月22日

大殿小学校と絵画など作品交換をしているパンプローナ市ホセ・マリア小学校児童の作品約70点を市役所市民ホールで展示する。展示作品は、本年4月に来山したパンプローナ市訪問団が持参し、大殿小学校に届けたもの。



22



23



24

11月25日

商店街等活性化先進事業の一環として行われた「スパニッシュ・ロード」事業において、パンプローナ市からケーキ職人のテオフィロ・エスクリバーノ・モンターニョ氏が来山。サンフェルミンケーキやチャンチゴリ（豚の脂を使ったパン）などを製造。また、11月30にはパン職人のフェリペ・ルンブレラス・カブレリソ氏が来山。チャパタ、カベソンといった主食用パンを製造。期間中多くの市民がパンプローナの味を楽しんだ。

平成12年（2000年）

3月22日

「やまぐち文化発信ショップ」運営委員会が、パンプローナ市のククスムス社デザイナーのミケル・ウルメネタ氏を招聘し、山口市を中心とした風物をモチーフとしたオリジナルデザインの制作のワークショップを開催する。20日来山、22日市長表敬、25日まで山口市滞在。

4月12日

スペイン出身で山口県国際交流員のエンマ・マルジェント・フィブラさんを講師に招き、なるほど！おもしろ！「スペイン講座」を開催。3回に渡り、スペイン事情やスペイン語について話をしてもらう。

パンプローナ市 姉妹都市締結20周年記念

5月10日から5月16日

姉妹都市締結20周年を記念し、市長を団長とした友好訪問団7名と山口ナバラの会が募集した市民訪問団16名がパンプローナ市を訪問。山口公園で行われた記念式典に参加し、桜の苗木の記念植樹を行う。

写真②⑤、②⑥、②⑦

7月10日から7月21日

市民ホールにおいて、姉妹都市締結20周年記念「パンプローナ市友好訪問団」の写真展が開催される。



②⑤



②⑥



②⑦

平成13年（2001年）

パンプローナ市姉妹都市締結20周年記念

9月20日から9月23日

姉妹都市締結20周年（2000年2月）を記念してパンプローナ市からヨランダ・バルシナ市長をはじめとする訪問団9名が来山。きらら博や市内の視察を行い、記念式典において友好の絆を深める。

写真⑳、㉑、㉒



㉒



㉑



㉑

平成14年（2002年）

7月27日から8月3日

県からの委託を受けた山口ナバラの会がスペイン・ナバラ州へ訪問団を派遣。パンプローナ市で開催されたナバラ祭りで民謡を披露し、市民との交流を深める、

平成17年（2005年）

5月10日

ナバラ州政府訪問団（ミゲル・サンス・セスマ首相以下8名）が『愛・地球博』での同州PRに合わせた来山。山口市長を表敬訪問するとともに、常栄寺雪舟庭などを視察。また、2006年ナバラ州で開催されるサビエル生誕500周年記念行事のPRを行う。

パンプローナ市 姉妹都市締結25周年記念行事

7月11日から7月21日

パンプローナ市との姉妹都市締結25周年を記念し、武田寿生市議会議長をはじめとする公式訪問団と、多々良孝一姉妹都市締結25周年記念事業実行委員会委員長をはじめとする市民訪問団の計32名が『サン・フェルミン祭り』開催中の

パンプローナ市を訪問。記念式典や記念植樹、図書等の贈呈などを行うとともに、同行した山口市造園協会会員による山口公園日本庭園の整備及び整備法の指導を行う。

写真㉓、㉔、㉕



㉓



㉔

8月4日

パンプローナ市のナバラ州立パブロ・サラサーテ高等音楽院の交響オーケストラが、第九を歌う会「アンディ フロイデ」との親善友好第九コンサートのために来山する。山口市長を表敬訪問するとともに、山口市民会館大ホールでジョイントコンサートを開催する。

平成18年（2006年）

6月20日

サビエルの子孫であるマリチャール氏が水上スキーで東南アジアから航行し、サビエルとゆかりの深い山口を訪問。

11月5日から11月8日

姉妹都市締結25周年を記念して、パンプローナ市からホアン・ルイス・サンチェス・デ・ムニアイン副市長を団長とする8人の記念訪問団が来山。市長表敬訪問のほか、徳地重源の郷、国民文化祭などを視察。国民文化祭の視察では、茶や香、和服の体験のほか、様々な日本文化に触れ、友好の絆を含める。また、市民から集められた紙芝居を贈呈する。

写真③④、③⑤、③⑥



③④



③⑤



③⑥

平成22年（2010年）

パンプローナ市 姉妹都市締結30周年記念行事（2010年）

10月17日から10月26日

パンプローナ市との姉妹都市締結30周年を記念し、渡辺純忠市長をはじめとする公式訪問団と多々良孝一姉妹都市締結30周年記念事業実行委員会委員長をはじめとする市民訪問団の計21人がパンプローナ市を訪問。記念式典や記念植樹のほか、現地学校を訪問して市民有志によるエプロンシアターの披露などの交流事業が行われた。また山口ナバラの会からは山口図書館へDVD資料収集のために、500ユーロが寄付された。

写真③⑦、③⑧、③⑨、④①



③⑧



③⑦



③⑨



④⑩

11月3日から11月7日

姉妹都市締結30周年を記念して、ナバラ州で活躍している芸術家による絵画・写真展が行われる。また、パンプローナ市在住の芸術家アリシア・オタエギ氏と小島鮎子氏によるワークショップが山口井筒屋5階催事場で開催される。このワークショップには、山口県立大学、山口芸術短期大学、中村女子高等学校、野田学園高等学校の学生が参加。赤と白の不用品を材料にして共同で作品を完成させた。

写真④①、④②、④③



④②



④①



④③

平成24年（2012年）

3月19日

スペインのナバラ州立大学のハビエル・カサリー副学長（国際関係担当）が副市長を表敬訪問。続いて、山口ナバラの会の多々良会長と重政事務局長と面談。同行者は山口県国際交流員のホルヘ・ガルエ氏。

平成25年（2013年）

10月22日

山口県ナバラ州友好10周年を記念した県訪問団の訪問に合わせてパンプローナ市長およびナバラ州知事に親書を託す。

平成26年（2014年）

市としての事業はなし

平成27年（2015年）

パンプローナ市 姉妹都市締結35周年記念行事（2015年）

2月19日

「姉妹都市パンプローナの紹介とスペイン映画上映会」を開催

姉妹都市35周年記念事業として山口情報芸術センターで市内在住のスペイン人、エフライン・ビジャモール・エレロさん（講演内容は『バスク、パンプローナ、山口に住んでみて』）と山口県国際交流員マリア・ルビオ・カロさん（講演内容は『スペインの朝食&お菓子の紹介』）の協力により「姉妹都市パンプローナの紹介とスペイン映画上映会『タイトル：朝食、昼食、そして夕食』」を開催。参加者は67名。

11月12日～17日

姉妹都市35周年を記念して市長、議長を含む山口市・パンプローナ市姉妹都市締結35周年記念訪問団7名がパンプローナを訪問。

ヤマグチ公園で記念式典や桜の木の記念植樹を行い、山口市より持参した鯉のぼりを掲揚した。滞在中にはパンプローナ・ヤマグチ公立図書館での日本の紙芝居とスペインの絵本の交換や、サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校で児童に山口市や日本の小学校の紹介を行い、スペイン・山口ナバラの会が小学校で行っていた紙芝居を使った姉妹都市パンプローナを紹介する「紙芝居プロジェクト」に共感した大内小学校の児童が作成した『桃太郎』のオリジナル紙芝居を贈呈した。このほか、ナバラ州政府表敬を行い、日本文化の紹介イベントが行われていたコンデスタブレ、タコネラ公園、ザビエル城、パンプローナのプロサッカーチームであるクラブ・アトレチコ・オサスナが本拠地とするエル・サダール・スタジアムなどを視察した。

12月中旬

絵葉書交流「スペイン・パンプローナ市のお友達にお手紙をかこう」を開催

山口県国際課と山口県国際交流員マリア・ルビオ・カロさんの協力のもと、パンプローナ市にあるサン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校より届いた児童の描いた絵葉書への返信の絵葉書の作成に殿小学校、宮野小学校の児童が取り組み、カデナ校へ送り届けた。

編集後記

パンプローナ市との交流は2015年2月19日に35周年を迎えました。パンプローナ市民の皆様的心の中には「ヤマグチ」の名が深く根付いておりました。歴史と文化を大切にするまち。どこか山口市に似ている印象を受けました。報告記には2015年の公式訪問団の訪問報告に加えて、山口市での記念事業の記録を掲載するとともに、ご覧になられました皆様が姉妹都市パンプローナに訪れたくなるような魅力的なまちの風景や、今までの交流の記録も掲載しました。両市の物理的な距離は遠いですが、両市民の皆様が誇りに思い、この友情が末永く続き、交流の輪が広がっていくように取り組んでまいります。今後も市国際交流事業に御理解と御支援を賜われますようお願いいたします。

（山口市国際交流室）

平成28年3月

編集発行：山口市国際交流室

山口市亀山町2番1号 〒753-8650

TEL 083-934-2725

FAX 083-922-2198

<http://www.city.yamaguchi.lg.jp>

E-mail: somu@city.yamaguchi.lg.jp

印刷：株式会社 桜プリント社



